

平成16年の事業年度を迎えて

事務局長 若尾 正義

当会は、去る4月1日から平成16年度の事業年度に入りました。

昨年度は、会員のご協力及び総務省を始め関係機関のご支援、ご協力のお陰をもちまして、当会の諸事業を順調に遂行することができました。心から厚くお礼申し上げます。

新しく始まりました平成16年度は、去る2月24日に開催されました第17回通常総会でご承認いただきました事業計画に基づき、総務大臣指定の「電波有効利用促進センター」及び「指定周波数変更対策機関」としての諸事業を積極的に推進して参りますが、主要な事業は次のとおりであります。

先ず、IMT-2000の標準化活動につきましては、引き続き高度化のための改定作業に取り組むとともに、総会においてIMT-2000研究委員会規定に追加されましたIMT-2000後継システムの技術的検討及び国際標準化にも積極的に取り組むこととしております。

次に、デジタル放送の標準化活動につきましては、ほぼ標準化作業を完了いたしました。引き続き策定された標準規格の改定作業を行うこととしております。

次に、電磁環境問題につきましては、引き続き、電波と人体に関する問題について調査研究を進める他、医療機器に対する携帯電話の発射する電波の影響等の調査を進めることとしております。

更に、「指定周波数変更対策機関」としての事業につきましては、本年1月に山陰地区及び有明地区におけるアナログ周波数変更対策が追加され、アナログ周波数変更対策が必要な全地域の指定を受けることとなりました。昨年末の首都圏、近畿圏及び中京圏における地上デジタルテレビジョン放送の開始に続き、平成18年全国サービスの開始に向け、アナログ周波数変更対策業務の迅速かつ適切な推進に全力で取り組むこととしております。

この他の電波有効利用試験研究事業、照会相談業務等のコンサルティング、情報提供業務、普及啓発、関連海外機関との連絡協力等の事業につきましても、昨年度と同様に積極的に推進したいと存じます。

以上述べましたように、平成16年度も当会に課せられました諸事業を、役員一同一丸となって積極的に取り組んで参りますので、会員を始め関係団体の皆様方には相変わらずのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に皆様方のますますのご発展をお祈り申し上げましてご挨拶とします。

電波行政の動き

世界初の携帯端末向け地上デジタル放送の 早期開始に向けた総務大臣談話について

総務省から平成16年3月24日（水）に、地上デジタル放送を携帯端末で受信する技術として必要な映像デジタル圧縮技術の特許条件について合意に至ったことに対して、麻生太郎 総務大臣より、談話が出されましたので紹介します。

<総務大臣談話>

本日、地上デジタル放送を携帯端末で受信する技術として必要な映像デジタル圧縮技術の特許条件について合意に至ったことを歓迎します。

この合意により、世界初の携帯端末向け地上デジタル放送の開始に向かって大きく前進したものと評価しています。

携帯電話等でデジタル放送を受信することで、いつでもどこでも、野球中継等のデジタル放送番組を視聴できたり、関連情報をデータ放送やインターネットによりその場で入手できたりするようになります。

さらに災害時の緊急情報の提供にも役立つなど、公共的な役割も一層高まっていくものと考えています。

総務省としては、このサービスは放送の視聴形態に革命的とも言える変化をもたらすものであり、地上デジタル放送全体の普及に大きく貢献するものと期待しています。

今後、放送事業者による具体的な放送サービスの検討、また携帯端末メーカーによる受信機の開発など、関係者の一層の取組みによって、早期に携帯端末向け地上デジタル放送のサービスが開始されることを強く望むとともに、その普及に向け関係者と共に取り組んでいきます。

平成十六年三月二十四日

総務大臣 麻生 太郎

UWB 無線システム委員会 中間報告について

平成14年9月から情報通信審議会 情報通信技術分科会 UWB無線システム委員会（主査：安藤 真 東京工業大学 理工学研究科教授）で、UWB無線システムの技術的条件について審議が行われていましたが、この度、中間報告が取りまとめられましたので、概要をお知らせします。

なおUWB無線システム委員会では、本件中間報告及び意見募集の結果を平成16年3月24日に情報通信審議会情報通信技術分科会に報告致しました。

1 背景

加入者系ネットワークの伝送容量の拡大等高速なインターネット接続環境の整備の進展を背景として、今後オフィスや家庭において事務の効率化、生活の利便性向上のために様々な機器に情報通信機能が搭載され、これら機器がネットワーク化されることが期待されています。また、このようなネットワークにおいては、動画像や大容量のデータをも伝送できる高速通信が可能になることが期待されています。

近年、近距離でこのような高速の情報伝送を無線で行う手段として、UWB（超広帯域）無線技術を用いるシステム（以下「UWB無線システム」という。）が注目されています。UWB無線システムは、パルス状の電波を発射して数GHz幅以上の非常に広い周波数帯域にわたって電力を拡散させるシステムであり、100Mbps規模の高速通信を可能とするほか、高精度な測位等を可能とするものとして期待されているが、その導入に当たっては、UWB無線システムが発射する電波の周波数帯域の中で電波を使用している各種無線システムとの間で周波数共用条件等の技術的条件を検討する必要があります。

このような状況を踏まえ、平成14年9月からUWB無線システム委員会において「UWB無線システムにおける技術的条件」について審議を行い、この度、中間報告をとりまとめました。

2 中間報告の概要

この中間報告では、これまで審議を行った、諸外国におけるUWBの検討状況、共用検討に必要な共用モデル案、各無線システムとの干渉検討及び今後の検討の進め方についてとりまとめられている。

なお、中間報告の概要、本文、意見募集の結果については
(http://www.soumu.go.jp/s-news/2004/040324_8.html) を参照ください。

ARIBの動き

第95回技術委員会（放送分野）が開催される

1 日時 平成16年3月24日（水）午後2時00分～4時05分

2 場所 社団法人電波産業会 第3会議室

3 議事要旨

ア 事務局から、第93回技術委員会において承認されたデジタル放送システム開発部会設置要綱の附則及び注について報告があった。

イ 品質評価法調査研究会委員長から、品質評価法調査研究会の活動状況及び今後の予定について報告があった。

ウ事務局から、品質評価法調査研究会設置要綱の改定提案があり、異議なく承認された。

エスタジオ設備開発部会 委員長から、スタジオ設備開発部会の活動について報告があった。

オ事務局から、スタジオ設備開発部会 設置要綱の改定提案があり、異議なく承認された。

カ事務局から、放送分野における調査・研究開発すべき課題に関するアンケートの実施結果について報告があった。

本件については、開発部会及び調査研究会の意見を求めるとともに、技術委員会の下にワーキンググループを設置し、今後取り組むべきテーマ、方法等について検討することになった。

キ事務局から、アナログ周波数変更対策業務について、進捗状況等の報告があった。

ク次回の技術委員会（放送分野）は、平成16年5月26日（水）午後2時から開催することになった。

編集後記

桜の開花宣言が早くから出たのにも係わらず、極端に寒い日や、また雨の日も多く、桜は、いつになったら見頃になるかと思っていましたら、球春を告げるプロ野球（パリーグ）が開幕した3月27日頃から急に暖かくなり、4月3日頃の週末が花見には一番良さそうに思います。

春になると、ARIBでもゴルフの季節が到来と、楽しみにしておられる方が多いのですが、私が最近、感銘したのが今年プロデビューし沖縄の開幕戦で優勝した宮里藍選手です。

高校を出てすぐ初戦で優勝するとは、たいした選手です。インタビューを聞いても大変さわやかで好感が持てます。お父さんからゴルフを通じて厳しくマナーを躰けられたそうです。

またサッカーでは先日のオリンピック予選での平山選手の活躍や、最近では世界フィギュアスケートの安藤選手など若い選手の活躍が印象に残っています。皆さん、さわやかで印象的な選手です。

春です！ARIBに勤めるわれわれは、室内勤務が主で外の空気に触れることがありません。週末には大いに体を動かしてさわやかな季節を満喫しましょう！